

4課

1月 24日

謙遜による一致

安息日午後

1月 17日

暗証聖句

どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになつて、わたしの喜びを満たしてほしい。(ピリピ 2:2、口語訳)

同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。(フィリピ 2:2、新共同訳)

今週の聖句

フィリピ(ピリピ)2:1～11、エレミヤ 17:9、フィリピ(ピリピ)4:8、Iコリント 8:2、ローマ 8:3、ヘブライ(ハブル)2:14～18

今週のテーマ

一致は強さです。しかし、真実を知ることと、真実を実行することとは同じではありません。私たちはみな、一致するために最善の努力をしても、時として失敗します。しかし、それは故意に一致を損なうこととはまったく異なります。だからこそ、パウロがフィリピの信徒への手紙(ピリピ人への手紙)を書き続ける中で、「心を合わせ、思いを一つにして」ほしい(口語訳「心を合わせ、一つ思いになって」ください(フィリピ)2:2)と彼らに望んでいるのも、不思議ではありません。

パウロは、一致の必要性をイエスの教えと模範に基づいて述べています。一致は、新約聖書全体、特に書簡の至る所で見られる主題です。宇宙における不一致の起源は、天のたった1人の天使の高慢と、地位や権力に対する渴望に端を発しており、その感情は完璧な環境の中でさえ急速に広がりました(イザ14:12～14参照)。そしてその感情は、神が定められた規則に対する同様の不満と、神が意図された領域よりも高い領域に達したいという欲望を通じて、エデンに足場を築いたのでした(創3:1～6)。

今週は、教会における一致の聖書的根拠について考え、特にイエスの驚くべきへりくだり、彼を見ることで得られる教訓、そして彼にもっと似た者となるために成長できる方法に焦点を当てます。

フィリ 2:2 (新共同訳)

2:2 同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。

イザ 14:12~14 (新共同訳)

14:12 ああ、お前は天から落ちた/明けの明星、曙の子よ。お前は地に投げ落とされた/もろもろの国を倒した者よ。

14:13 かつて、お前は心に思った。「わたしは天に上り/王座を神の星よりも高く据え/神々の集う北の果ての山に座し

14:14 雲の頂に登って/いと高き者のようになろう」と。

創 3:1~6 (新共同訳)

3:1 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」

3:2 女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。

3:3 でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触ってもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」

3:4 蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。」

3:5 それを食べると、目が開け、神のように善惡を知るものとなることを神はご存じなのだ。」

3:6 女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。

ピリ 2:2 (口語訳)

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

イザ 14:12~14 (口語訳)

14:12 黎明の子、明けの明星よ、あなたは天から落ちてしまった。もろもろの国を倒した者よ、あなたは切られて地に倒れてしまった。

14:13 あなたはさきに心のうちに言った、『わたしは天にのぼり、わたしの王座を高く神の星の上におき、北の果なる集会の山に座し、

14:14 雲のいただきにのぼり、いと高き者のようにになろう』。

創 3:1~6 (口語訳)

3:1 さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。へびは女に言った、「園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか。」

3:2 女はへびに言った、「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、

3:3 ただ園の中央にある木の実については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました。」

3:4 へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。」

3:5 それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善惡を知る者となることを、神は知っておられるのです。」

3:6 女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。

日曜日 1月18日 フィリピ(ピリピ)における不一致

問1 フィリピ(ピリピ)2:1~3を読んでください。教会内の不一致を招いた要因は、何だと思いますか。パウロはどのような解決策を提案していますか。

パウロにとって、自分が設立し、とても愛した教会が対立や争いに満ちているのを見るのは、大きな失望であったに違いありません。彼はその問題を表現するために非常に強い言葉を用いています。「利己的な野心」(英訳聖句(Philippians 2:3, ESV “Selfish ambition”)の直訳)【新共同訳「利己心」、口語訳「党派心】とは、ギリシア語の「エリセイア」を訳したもので、フィリピ(ピリ)1:17(英訳聖書 ESV)すでに、キリストの働きを推進するよりも、自分自身を売り込むことに熱心な、ローマにおけるパウロの利己的なライバルたちを指すために使われています。

「利己的な野心(“Selfish ambition”)」は、肉の業の一つであり(ガラ5:20、NKJV参照)、ヤコブが指摘しているように、「ねたみや利己心のあるところには、混乱やあらゆる悪い行いがある」【口語訳「ねたみと党派心とのあるところには、混乱とあらゆる忌むべき行為とがある】(ヤコ3:16)のです。「虚栄心」【口語訳「虚栄」】(英語聖書(ESV)Philippians 2:3 “conceit”)に相当するギリシア語【kenodoxia】は、新約聖書においてここでしか用いられていませんが、聖書以外の文献では、傲慢、空虚な自尊心、自意識過剰といった意味で登場します。パウロはガラテヤの信徒を戒める際に、これと非常によく似た言葉【kenodoxos】を使っています。「うぬぼれて、互いに挑み合ったり、妬み合ったりするのはやめましょう」【口語訳「互にいどみ合い、互にねたみ合って、虚栄に生きてはならない】(ガラ5:26)。

パウロがこれらの問題に対する解決策として挙げているものに注目してください。【フィリ(ピリ)2:1~2参照】

- (1) 「キリストによる励まし」【口語訳「キリストによる勧め】——パウロは、キリストご自身の模範を力強い動機として用いています。
- (2) 「愛の慰め」【口語訳「愛の励まし】——イエスは神の愛を明らかにし、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」【口語訳「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい】(ヨハ15:12)と命じておられます。
- (3) 「“靈”による交わり」【口語訳「御靈の交わり】——聖靈の臨在は、初代教会に浸透していたようなクリスチャンの親密な関係を生み出します(使徒2:42、Ⅱコリ13:13と比較)。
- (4) 「慈しみ」【口語訳「熱愛】(または同情)——この聖なる資質は、キリストの生涯に頻繁にあらわれており(マタ9:36、20:34、マコ1:41参照)、「善いサマリア人」(ルカ10:33)や「放蕩息子」(同15:20)のたとえ話にも描かれています。
- (5) 「憐れみ」【口語訳「あわれみ】——イエスによって体現されたこの資質は、彼に従う者たちの生活にも見られるべきです(ルカ6:36)。
- (6) 「同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにする」【口語訳「同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになる(る)】こと——なんという光景でしょう。パウロが一致の重要性をこれ以上強調できるとは

思えません。彼が指摘するように、私たちが持つべき思い(mind)は、「キリスト・イエスにもみられるもの」〔口語訳「キリスト・イエスにあっていだいているのと同じ思い」〕(フィリ[ピリ]2:5)です。

26

フィリ 2:1~3 (新共同訳)

2:1 そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、『靈』による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、
2:2 同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。
2:3 何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、

Philippians 2:1~3 (ESV)

2:1 So if there is any encouragement in Christ, any comfort from love, any participation in the Spirit, any affection and sympathy,
2:2 complete my joy by being of the same mind, having the same love, being in full accord and of one mind.
2:3 Do nothing from **selfish ambition** or **conceit**, but in humility count others more significant than yourselves.

フィリ 1:17 (新共同訳)

1:17 他方は、自分の利益を求めて、獄中のわたしをいっそう苦しめようという不純な動機からキリストを告げ知らせているのです。

Philippians 1:17 (ESV)

1:17 The former proclaim Christ out of **selfish ambition**, not sincerely but thinking to afflict me in my imprisonment.

ガラ 5:20 (新共同訳)

5:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、

Galatians 5:20 (NKJV)

5:20 idolatry, sorcery, hatred, contentions, jealousies, outbursts of wrath, **selfish ambitions**, dissensions, heresies,

ヤコ 3:16 (新共同訳)

3:16 ねたみや利己心のあるところには、混乱やあらゆる悪い行いがあるからです。

James 3:16 (ESV)

3:16 For where jealousy and **selfish ambition** exist, there will be disorder and every vile practice.

ガラ 5:26 (新共同訳)

5:26 うねばれて、互いに挑み合ったり、ねたみ合ったりするのはやめましょう。

ピリ 2:1~3 (口語訳)

2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御靈の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、
2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。
2:3 何事も党派心や虚栄からするのではなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

ピリ 1:17 (口語訳)

1:17 前者は、わたしの入獄の苦しみに更に患難を加えようと思って、純真な心からではなく、党派心からそうしている。

ガラ 5:20 (口語訳)

5:20 偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、

ヤコ 3:16 (口語訳)

3:16 ねたみと党派心とのあるところには、混乱とあらゆる忌むべき行為とがある。

ガラ 5:26 (口語訳)

5:26 互にいどみ合い、互にねたみ合って、虚栄に生きてはならない。

Galatians 5:26, (NKJV)

5:26 Let us not become **conceited**, provoking one another, envying one another.

ヨハ 15:12 (新共同訳)

15:12 わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。

使徒 2:42 (新共同訳)

2:42 彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であつた。

IIコリ 13:13 (新共同訳)

13:13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共ににあるように。

マタ 9:36 (新共同訳)

9:36 また、群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているを見て、深く憐れられた。

マタ 20:34 (新共同訳)

20:34 イエスが深く憐れんで、その目に触れられると、盲人たちはすぐ見えるようになり、イエスに従つた。

マコ 1:41 (新共同訳)

1:41 イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言わると、

ルカ 10:33 (新共同訳)

10:33 ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見て憐れに思い、

ルカ 15:20 (新共同訳)

15:20 そして、彼はそこをたち、父親のもとに行つた。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄つて首を抱き、接吻した。

ルカ 6:36 (新共同訳)

6:36 あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」

フィリ 2:5 (新共同訳)

2:5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

ヨハ 15:12 (口語訳)

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

使徒 2:42 (口語訳)

2:42 そして一同はひたすら、使徒たちの教を守り、信徒の交わりをなし、共にパンをさき、祈をしていた。

IIコリ 13:13 (口語訳)

13:13 主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共ににあるように。

マタ 9:36 (口語訳)

9:36 また群衆が飼う者のない羊のように弱り果て、倒れているのをごらんになつて、彼らを深くあわれられた。

マタ 20:34 (口語訳)

20:34 イエスは深くあわれんで、彼らの目にさわられた。すると彼らは、たちまち見えるようになり、イエスに従つて行った。

マコ 1:41 (口語訳)

1:41 イエスは深くあわれみ、手を伸ばして彼にさわり、「そうしてあげよう、きよくなれ」と言われた。

ルカ 10:33 (口語訳)

10:33 ところが、あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、

ルカ 15:20 (口語訳)

15:20 そこで立つて、父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思つて走り寄り、その首をだいて接吻した。

ルカ 6:36 (口語訳)

6:36 あなたがたの父なる神が慈悲深いように、あなたがたも慈悲深い者となれ。

ピリ 2:5 (口語訳)

2:5 キリスト・イエスにあつていだいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

パウロがフィリピ(ピリピ)2:2で一致を強調していることについて、さらに考えてみましょう。彼は基本的に同じことを四つの異なる言い方で述べています。またパウロが、心、思い、感情に焦点を合わせていることにも注目してください。宗教指導者たちは外面向的な行動を強調する傾向がありましたが、イエスは私たちの思いや感情に焦点を合わせられました。例えば、若い金持ちの議員は、常に律法を守ってきたと主張しました。しかし、イエスは彼に、持っている物を売り払い、貧しい人々に施し、従ってきなさいと言うことで、世俗的なものに対する彼の執着を試されました。イエスはまた、人を汚すのは心(精神)から出てくるものだと言わされました。「悪意、殺意、姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来る」〔口語訳「悪い思い、すなわち、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、誹りは、心の中から出てくる」〕(マタ15:19)のであり、「人の口からは、心にあふれていることが出て来るのである」〔口語訳「おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである」〕(同12:34)。

問2 フィリピ(ピリピ)2:3、4を読んでください。教会に一致をもたらすために、パウロはどのような実際的な手段を勧めていますか。

パウロの言葉は、謙遜な姿を描いています。それは、へりくだり、他人を自分よりも優れた者と考え、自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払うということです。言うことは簡単ですが、行うことは難しいでしょう。しかし、これらは、私たちがあらゆる交流において心に留めておくべき重要な原則です。会話では、相手の言っていることを理解するために傾聴し、相手の視点から問題を見ようと努めるよりも、言わしたことに対する自分の返答に、しばしば意識を集中させてしまう傾向があります。争いはしばしば、積極的に耳を傾けるだけで避けられる、単純な誤解から生じます。私たちは相手と同意できないかもしれません、相手の見解に耳を傾け、それを理解しようと努めることは、健全なコミュニケーションと信頼を育むための第一歩です。

パウロは、「靈による一致」〔口語訳「聖靈による一致」〕(エフェ[エペ]4:3)について語っており、それは、「平和のきずな」(同)を生み出します。教会に争いがあるなら、聖靈は事態を收拾し、私たちを一致させ、調和を生み出すことがおできになります。同じ章でパウロは、「神の子に対する信仰と知識において一つのものとなる」〔口語訳「神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達(する)」〕(同4:13)について語っています。この二つは互いに深く関連しており、キリストとその教えを知ることから生まれる同じ信仰、同じ聖書理解を持つことは、私たちの間に一致が広まるために不可欠です。

どうしたら他人を自分よりも優れた者と考えられるのでしょうか。

【参考】英語テキストにある文

What kind of death to self would lead us to where we, indeed, esteem others better than ourselves? How can we learn to do that? How different would our relationships be if we all lived like that?

どのような自己犠牲が、私たちを自分よりも他者を尊ぶ境地へと導くのでしょうか。
どうすればそうできるようになるのでしょうか。私たち全員がそのように生きたら、私たちの人間関係はどれほど変わるでしょうか。

27

フィリ 2:2 (新共同訳)

2:2 同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。

マタ 15:19 (新共同訳)

15:19 悪意、殺意、姦淫、みだらな行い、盗み、偽証、悪口などは、心から出て来るからである。

マタ 12:34 (新共同訳)

12:34 蝻の子らよ、あなたたちは悪い人間であるのに、どうして良いことが言えようか。人の口からは、心にあふれていることが出て來るのである。

フィリ 2:3、4 (新共同訳)

2:3 何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、

2:4 めいめい自分のことだけでなく、他人のことも注意を払いなさい。

エphe 4:3

4:3 平和のきずなで結ばれて、靈による一致を保つように努めなさい。

エphe 4:13

4:13 ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。

ピリ 2:2 (口語訳)

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

マタ 15:19 (口語訳)

15:19 というのは、悪い思い、すなわち、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、誹りは、心の中から出てくるのであって、

マタ 12:34 (口語訳)

12:34 まむしの子らよ。あなたがたは悪い者であるのに、どうして良いことを語ることができようか。おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである。

ピリ 2:3、4 (口語訳)

2:3 何事も党派心や虚栄からするのではなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりも優れた者としなさい。

2:4 おのの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

エペ 4:3

4:3 平和のきずなで結ばれて、聖靈による一致を守り続けるように努めなさい。

エペ 4:13

4:13 わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。

火曜日

1月 20 日

神の靈か、世の靈か

世界中でますます多くの企業が、コンピューターの処理能力と人間の脳を組み合わせる技術開発に取り組んでいます。言い換えれば、科学者たちは心をコンピ

ューターに接続することで、コンピューターを通して私たちの思考に影響を与えようとしています。人間の脳に埋め込み装置を使用することで、てんかん、うつ病、パーキンソン病の治療に役立つ、肯定的な結果が期待されているものの、より悪意のある利用法を想像することは難しくありません。マインド・コントロールが可能になるのは、そう先のことではないはずです。

実際、ある意味で、マインド・コントロールはすでに始まっていると言えるでしょう。私たちの心はコンピューターのようなものでありながら、それよりもはるかに優れています。私たちが毎日接している絶え間ない情報の流れが、私たちの心を「プログラム」し、思考を条件づけ、行動を導きます。メディアに没頭すると、世俗的な人々の考え方方が私たちの心に刻み込まれ、私たちも同じように考え始めます。それはまるで、他人の心が私たちの心に埋め込まれたり、融合されたりしたかのようです。

私たちは、イエスのように「靈の思い」(ロマ8:6)を持つべきです。パウロは、「神の靈以外に神のことを知る者はいません」〔口語訳「神の思いも、神の御靈以外には、知るものはない」〕と言い、「神の靈」〔口語訳「神の御靈」〕を「世の靈」(I コリ2:11, 12)と対比しています。私たちの教師は誰ですか。そして、私たちは何を学んでいるのでしょうか。

問3 フィリピ(ピリピ)2:5(口語訳)を読んでください。キリストの「思い」("mind")を抱くとは、どういうことだと思いますか。

結局のところ、私たちは思いを変えることはできますが、心を変えることはできません。変えることができるるのは神だけです。聖靈は私たちの心の手術を行い、「靈の劍」〔口語訳「御靈の劍」〕(エフェ[エペ]6:17)、つまり「生きており、力を発揮し、……精神と靈、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分ける」〔口語訳「生きていて、力があり、……精神と靈魂と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分ける」〕(ヘブ4:12)神の言葉(口語訳:神の言)を用いる必要があります。聖靈を通してのみ、私たちは自分自身を本当に知ることができます。なぜなら、私たちの心というのは、本来、私たちを「偽るもの」(エレ17:9、口語訳)だからです。「偽る」に相当するヘブライ(ヘブル)語(「アコブ」)は、私たちをつまずかせるでこぼこの地面を指し、ひいては、ひねくれ、ねじ曲がり、歪んだ考えを意味します。私たちは、心を「新たにして」変えられなければなりません。そうすることで、「何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになる(る)」〔口語訳「何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである」〕(ロマ12:2)のです。

【参考】英語テキストにある文

Why is it so important that we follow what Paul tells us here: “Finally, brethren, whatever things are true, whatever things are noble, whatever things are just, whatever things are pure, whatever things are lovely, whatever things are of good report, if there is any virtue and if there is anything praiseworthy—meditate on these things” (Phil. 4:8, NKJV)?

パウロがここで私たちに語ってくれていることに従うことが、なぜそれほど重要なのでしょうか。「終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値するがあれば、それを心に留めなさい。」[口語訳「最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい」](フィリ[ピリ]4:8)

28

ロマ 8:6 (新共同訳)

8:6 肉の思いは死であり、靈の思いは命と平和であります。

イコリ 2:11, 12 (新共同訳)

2:11 人の内にある靈以外に、いったいだれが、人のことを知るでしょうか。同じように、神の靈以外に神のことを知る者はいません。

2:12 わたしたちは、世の靈ではなく、神からの靈を受けました。それでわたしたちは、神から恵みとして与えられたものを見るようになったのです。

フィリ 2:5 (新共同訳)

2:5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

エフエ 6:17 (新共同訳)

6:17 また、救いを兜としてかぶり、靈の剣、すなわち神の言葉を取りなさい。

ヘブ 4:12 (新共同訳)

4:12 というのは、神の言葉は生きており、力を發揮し、どんな両刃の剣よりも鋭く、精神と靈、関節と骨髄とを切り離すほどに刺し通して、心の思いや考えを見分けることができるからです。

エレ 17:9 (新共同訳)

17:9 人の心は何にもまして、とらえ難く病んでいる。誰がそれを知りえようか。

ロマ 12:2 (新共同訳)

12:2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を

ロマ 8:6 (口語訳)

8:6 肉の思いは死であるが、靈の思いは、いのちと平安である。

イコリ 2:11, 12 (口語訳)

2:11 いったい、人間の思いは、その内にある人間の靈以外に、だれが知っているようか。それと同じように神の思いも、神の御靈以外には、知るものはない。

2:12 ところが、わたしたちが受けたのは、この世の靈ではなく、神からの靈である。それによって、神から賜わった恵みを悟るためである。

ピリ 2:5 (口語訳)

2:5 キリスト・イエスにあっていだいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

エペ 6:17 (口語訳)

6:17 また、救のかぶとをかぶり、御靈の剣、すなわち、神の言を取りなさい。

ヘブ 4:12 (口語訳)

4:12 というのは、神の言は生きていて、力があり、もう刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈と、関節と骨髄とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。

エレ 17:9 (口語訳)

17:9 心はよろずの物よりも偽るもので、はなはだしく惡に染まっている。だれがこれを、よく知ることができようか。

ロマ 12:2 (口語訳)

12:2 あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすること

変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになります。

フィリ4:8 (新共同訳)

4:8 終わりに、兄弟たち、すべて真実なこと、すべて気高いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて名誉なことを、また、徳や称賛に値するがあれば、それを心に留めなさい。

によって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえるべきである。

ピリ4:8 (口語訳)

4:8 最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。

水曜日 1月 21日 キリストの心

【参考】The Mind of Christ、キリストの思い(火曜日:問3、参考)

かつてモハメド・アリは、「私は最も偉大だ」と言いました。そして、1963年8月、ボクシングの世界ヘビー級チャンピオンになる半年前に、「私は最も偉大だ」というタイトルのレコード・アルバムをリリースしました。アリは間違いなく偉大なスポーツ選手でしたが、もし人がキリストの心を求めるのであれば、見習うべき模範ではありませんでした。

対照的に、イエスは完全に罪のないお方でした。彼は、「あらゆる点において、わたしたちと同様に」〔口語訳「すべてのことについて、わたしたちと同じように」〕(ヘブ4:15)試練に遭われたものの、一つの思いによってさえも、罪を犯されませんでした。しかし、ヘブライ(ヘブル)5:8は、「キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました」〔口語訳「彼(キリスト)は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び」〕と述べています。イエスは父なる神の御心にいつも完全に従われました。困難な場面も多くあったに違いありませんが、主が従うことを拒まれた瞬間は一度もなかったのです。

問4 フィリピ(ピリピ)2:5~8を読んでください。パウロはここで、私たちに何を語っているのでしょうか。これらの言葉の意味するところは、何でしょうか。最も重要なことですが、ここで示されている原則を、いかに私たち自身の生活に適用できるでしょうか。

神と等しい者であり、神であるイエスは、人間の肉体を取られただけでなく、「僕」(ギリシア語で「ドゥーロス」、「召し使い」「奴隸」の意)となり、私たちの罪のためのいけにえとしてご自身をささげられました。別の箇所でパウロは、イエスが「わたしたちのために呪いとなつ(た)」〔口語訳「わたしたちのためにのろいとなつ(た)」〕(ガラ3:13)と述べています。私たちの創造主なる神は、私たちのあがない主となるため

に十字架上で死なれました。そのために彼は、私たちに対する呪いとならねばならなかったのです。

私たちはこの箇所の意味を、いかに理解すればよいのでしょうか。さらに、この聖句が私たちに命じていること、つまり、イエスと同じように進んでへりくだり、他人のために自分を犠牲にするには、どうすればよいのでしょうか。

別の箇所でイエスは、こう言われました。「あなたがたのうちでいちばん偉い人は、仕える者になりなさい。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」〔**口語訳「あなたがたのうちでいちばん偉い者は、仕える人でなければならない。だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう」**〕(マタ 23:11,12)。これは、多くの点で、パウロが**「**フ**ィリピ(ピリピ)2:5~8**で私たちにもするように言っていたことと重なります。

パウロはここで、「何事も利己心や虚栄心」〔**口語訳「何事も党派心や虚栄」**〕(フリピ(ピリ)2:3)からしないようにと先に述べたことを、より力強く、はっきりとした言葉で語っているのです。

【参考】英語テキストにある文

How should we respond to what Christ has done for us, as depicted in **Philippines 2:5~8**? What response could possibly be “adequate” or worthy of what Christ has done for us, perhaps other than to fall on our knees and worship? Why is it so wrong to think that our works can add to what Christ has already done for us?

フリピ(ピリピ)2:5~8にあるように、キリストが私たちのために成し遂げてくださったことに対して、私たちはどのように応答すべきでしょうか。ひざまずいて礼拝すること以外に、キリストの御業にふさわしい「十分な」応答などあり得るでしょうか。なぜ、私たちの行いがキリストの御業に何かを加えられると考えることが、それほど間違っているのでしょうか。

ヘブ 4:15 (新共同訳)

4:15 この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかつたが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。

ヘブ 5:8 (新共同訳)

5:8 キリストは御子であるにもかかわらず、多くの苦しみによって従順を学ばれました。

フリ 2:5~8 (新共同訳)

2:5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

2:6 キリストは、神の身分でありながら、

ヘブ 4:15 (口語訳)

4:15 この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかつたが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。

ヘブ 5:8 (口語訳)

5:8 彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、

フリ 2:5~8 (口語訳)

2:5 キリスト・イエスにあっていだいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい

2:6 キリストは、神のかたちであられた

神と等しい者であることに固執しようと
は思わず、
2:7 かえって自分を無にして、僕の身分
になり、人間と同じ者になられました。
人間の姿で現れ、
2:8 へりくだって、死に至るまで、それも
十字架の死に至るまで従順でした。

ガラ 3:13 (新共同訳)

3:13 キリストは、わたしたちのために呪
いとなって、わたしたちを律法の呪いか
ら贖い出してくださいました。「木にかけ
られた者は皆呪われている」と書いてあ
るからです。

マタ 23:11、12 (新共同訳)

23:11 あなたがたのうちでいちばん偉い
人は、仕える者になりなさい。
23:12 だれでも高ぶる者は低くされ、へ
りくだる者は高められる。

フィリ 2:3 (新共同訳)

2:3 何事も利己心や虚栄心からするの
ではなく、へりくだって、互いに相手を自
分よりも優れた者と考え、

が、神と等しくあることを固守すべき事
とは思わず、
2:7 かえって、おのれをむなしうして僕
のかたちをとり、人間の姿になられた。
その有様は人と異ならず、
2:8 おのれを低くして、死に至るまで、し
かも十字架の死に至るまで従順であられ
た。

ガラ 3:13 (口語訳)

3:13 キリストは、わたしたちのためにの
ろいとなって、わたしたちを律法ののろ
いからあがない出して下さった。聖書
に、「木にかけられる者は、すべてのろわ
れる」と書いてある。

マタ 23:11、12 (口語訳)

23:11 そこで、あなたがたのうちでいち
ばん偉い者は、仕える人でなければなら
ない。

23:12 だれでも自分を高くする者は低く
され、自分を低くする者は高くされるで
あろう。

ピリ 2:3 (口語訳)

2:3 何事も党派心や虚栄からするのでな
く、へりくだった心をもって互に人を自
分よりすぐれた者としなさい。

木曜日 1月 22 日 信心の秘められた真理 [口語訳「信心の奥義」](Iテモ 3:16)

聖書の中でよく知られている1節に、Iコリント8:2があります。「自分は何か知
っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです」
〔口語訳「もし人が、自分は何か知っていると思うなら、その人は、知らなければならないほ
どの事すら、まだ知っていない」〕。私たちがすべてを知っている主題などありません。
どのようなことについても、私たちは常に何かを学ぶことができます。神性や受肉
に関連する永遠の真実については、それがどれほど当てはまるでしょう。パウ
ロは、人間となられたキリストの驚くべきへりくだりについて頻繁に言及していま
す。それは、永遠をもってしても語り尽くせない主題です。

問5 ローマ 8:3、ヘブライ(ハブル)2:14~18、4:15を読んでください。イエスのへりくだ
りと彼が人性を取られたことには、どのような特徴がありましたか。

神の永遠の御子が、聖霊の働きによって(ルカ1:35参照)、マリアの胎内で神にして人間という存在になることは、どうして可能だったのでしょうか。無限で永遠の存在が、突然、死を免れない有限の人間になるなんて、信じられません。それが、「信心の秘められた真理」**〔口語訳「信心の奥義」〕**(Iテモ3:16)とパウロが呼ぶものの核心なのです。

フィリピ(ピリピ)2章の美しい贊歌の中で、パウロはこのへりくだりについて、聖書のどの箇所よりもいくつかの点で詳しく述べています。

- 「神のかたちであられた」(ピリ2:6、口語訳)——「モルフェ(形)」というギリシア語は、イエスが父なる神と等しくあられたという、彼の神性を指しています(ヨハ1:1と比較)。
- 「おのれをむなしうし」(ピリ2:7、口語訳)——神としての特権を無にし、真に人間となり、私たちと同じように試練に遭われたというイエスの神秘的な性質は、驚くべきものです。
- 「おのれを低くして」(ピリ2:8、口語訳)——イエスは人性を取ることで、あらゆるものに対して優越的な立場から、ルシファーの目的とは正反対である、まったく僕の立場へと移られました。
- 「死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで」(ピリ2:8、口語訳)——イエスが選ばれた死に方ほど屈辱的な死に方はありませんでした。彼は父なる神と「平和の計画」**〔口語訳「平和の一致」〕**(ゼカ6:13)の中でそれを計画され、モーセが〔青銅の〕蛇を掲げることによって前もって示し(民21:9、ヨハ3:14)、こうして「罪と何のかかわりもない方を、神はわたしたちのために罪となさいました。わたしたちはその方によって神の義を得ることができたのです」**〔口語訳「神はわたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、わたしたちが、彼にあって神の義となるためなのである」〕**(IIコリ5:21)。

【参考】英語テキストにある文

How can, and should, focusing on what Jesus did for us at the cross—seeing the Cross as our example of surrender and humility— make us more humble, as well as more submissive to God?

十字架でイエスさまが私たちのためにしてくださったことに焦点を当てること——つまり、十字架を私たちの服従と謙遜の模範としてとらえること——で、どうすれば私たちはもっと謙虚になり、神に対してもっと従順になれるでしょうか、また、そうするにはどうすべきでしょうか。

Iコリ8:2 (新共同訳)

8:2 自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです。

Iコリ8:2 (口語訳)

8:2 もし人が、自分は何か知っていると思うなら、その人は、知らなければならぬほどの事すら、まだ知っていない。

ロマ 8:3 (新共同訳)

8:3 肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださいました。つまり、罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです。

ヘブ 2:14～18 (新共同訳)

2:14 ところで、子らは血と肉を備えているので、イエスもまた同様に、これらのものを備えられました。それは、死をつかさどる者、つまり悪魔を御自分の死によって滅ぼし、

2:15 死の恐怖のために一生涯、奴隸の状態にあった者たちを解放なさるためでした。

2:16 確かに、イエスは天使たちを助けず、アブラハムの子孫を助けられるのです。

2:17 それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。

2:18 事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることがおきになるのです。

ヘブ 4:15 (新共同訳)

4:15 この大祭司は、わたしたちの弱さに同情できない方ではなく、罪を犯されなかつたが、あらゆる点において、わたしたちと同様に試練に遭われたのです。

ルカ 1:35 (新共同訳)

1:35 天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。

I テモ 3:16 (新共同訳)

3:16 信心の秘められた真理は確かに偉大です。すなわち、キリストは肉において現れ、「靈」において義とされ、天使たちに見られ、異邦人の間で宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。

フィリ 2:6～8 (新共同訳)

2:6 キリストは、神の身分でありながら、

ロマ 8:3 (口語訳)

8:3 律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。

ヘブ 2:14～18 (口語訳)

2:14 このように、子たちは血と肉とに共にあずかっているので、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる。それは、死の力を持つ者、すなわち悪魔を、ご自分の死によって滅ぼし、

2:15 死の恐怖のために一生涯、奴隸となっていた者たちを、解き放つためである。

2:16 確かに、彼は天使たちを助けることはしないで、アブラハムの子孫を助けられた。

2:17 そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって、民の罪をあがなうために、あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかつた。

2:18 主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのです。

ヘブ 4:15 (口語訳)

4:15 この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかつたが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。

ルカ 1:35 (口語訳)

1:35 御使が答えて言った、「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。

I テモ 3:16 (口語訳)

3:16 確かに偉大なのは、この信心の奥義である、「キリストは肉において現れ、靈において義とせられ、御使たちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天に上げられた」。

ピリ 2:6～8 (口語訳)

2:6 キリストは、神のかたちであられた

神と等しい者であることに固執しようと
は思わず、

ヨハ 1:1 (新共同訳)

1:1 初めに言があった。言は神と共にあ
った。言は神であった。

フィリ 2:7、8 (新共同訳)

2:7 かえって自分を無にして、僕の身分
になり、人間と同じ者になられました。
人間の姿で現れ、

2:8 へりくだって、死に至るまで、それも
十字架の死に至るまで従順でした。

ゼカ 6:13 (新共同訳)

6:13 彼こそ主の神殿を建て直し/威光を
まとい、王座に座して治める。その王座
の傍らに祭司がいて/平和の計画が二人
の間に生ずる。

民 21:9 (新共同訳)

21:9 モーセは青銅で一つの蛇を造り、旗
竿の先に掲げた。蛇が人をかんでも、そ
の人が青銅の蛇を仰ぐと、命を得た。

ヨハ 3:14 (新共同訳)

3:14 そして、モーセが荒れ野で蛇を上
げたように、人の子も上げられねばなら
ない。

Ⅱコリ 5:21 (新共同訳)

5:21 罪と何のかかわりもない方を、神は
わたしたちのために罪となさいました。
わたしたちはその方によって神の義を得
ることができたのです。

が、神と等しくあることを固守すべき事
とは思わず、

ヨハ 1:1 (口語訳)

1:1 初めに言があった。言は神と共にあ
った。言は神であった。

ピリ 2:7、8 (口語訳)

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕
のかたちをとり、人間の姿になられた。
その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、し
かも十字架の死に至るまで従順であられ
た。

ゼカ 6:13 (口語訳)

6:13 すなわち彼は主の宮を建て、王として
の光栄を帯び、その位に座して治める。
その位のかたわらに、ひとりの祭司がい
て、このふたりの間に平和の一致があ
る』。

民 21:9 (口語訳)

21:9 モーセは青銅で一つのへびを造り、
それをさおの上に掛けて置いた。すべて
へびにかまれた者はその青銅のへびを仰
いで見て生きた。

ヨハ 3:14 (口語訳)

3:14 そして、ちょうどモーセが荒野でへ
びを上げたように、人の子もまた上げら
れなければならない。

Ⅱコリ 5:21 (口語訳)

5:21 神はわたしたちの罪のために、罪を
知らないかたを罪とされた。それは、わ
たしたちが、彼にあって神の義となるた
めなのである。

金曜日 1月 23 日 さらなる研究

「人間の心の水路を通じて、世代から世代へと受け継がれてきた父性愛も、人
間の魂のうちに掘られてきたあらゆる優しさの泉も、神の無限で尽きることのない
愛という果てしない海に比べれば、ごくささやかな小川にすぎない。口でそれを表
現することも、ペンでそれを描写することもできない。一生の間、毎日それについ
て瞑想し、それを理解するために聖書を熱心に調べ、天の父の愛と憐れみを悟ろ
うと、神から与えられたすべての力や能力を総動員しても、その先には知るべき無
限の領域がある。その愛を何世紀にわって研究しても、この世のために御子を死

に渡された神の愛の長さ、広さ、深さ、高さを完全に理解することはできない。永遠をもってしても、それを完全に明らかにすることはできない。しかし、私たちが聖書を学び、キリストの生涯と救済計画について瞑想するにつれて、これらの偉大な主題が徐々に明らかにされるのである」(『教会への証』第5巻 740 ページ、英文)。

【参考】——Ellen G. White, Testimonies for the Church, vol. 5, p. 740

“All the paternal love which has come down from generation to generation through the channel of human hearts, all the springs of tenderness which have opened in the souls of men, are but as a tiny rill to the boundless ocean when compared with the infinite, exhaustless love of God. Tongue cannot utter it; pen cannot portray it. You may meditate upon it every day of your life; you may search the Scriptures diligently in order to understand it; you may summon every power and capability that God has given you, in the endeavor to comprehend the love and compassion of the heavenly Father; and yet there is an infinity beyond. You may study that love for ages; yet you can never fully comprehend the length and the breadth, the depth and the height, of the love of God in giving His Son to die for the world. Eternity itself can never fully reveal it. Yet as we study the Bible and meditate upon the life of Christ and the plan of redemption, these great themes will open to our understanding more and more.”.

「キリストの学校でモーセが受けたような訓練を受けているとき、私たちは何を学ぶのだろうか。高ぶることだろうか。自分を過大評価することだろうか。そうではない。この学校で学べば学ぶほど、私たちはますます柔軟になり、謙遜になるのである。知るに値するすべてのことを学んだと思ってはならない。神から与えられた能力を最大限に活用し、死すべき身から不死の身へ変えられたときに、私たちが獲得したものを置き去りにすることなく、それを天国へ持っていくようにすべきである。終わりなき永遠の時代を通じて、キリストとそのあがないの働きが、私たちの研究の主題となるであろう」(『原稿36』1885年、英文)。

【参考】——Ellen G. White, Manuscript 36, 1885

“When we are receiving a training, as did Moses in the school of Christ, what shall we learn?—to become puffed up?—to have an exalted opinion of ourselves?—No, indeed. The more we learn in this school, the more we shall advance in meekness and lowliness of mind. We are not to feel that we have learned everything worth knowing. We should put to the best use the talents God has given us, that when we are changed from mortality to immortality, we shall not leave behind that which we have attained, but may take it with us to the other side. Throughout the ceaseless ages of eternity, Christ and His work of redemption will be the theme of our study.”.

話し合いのための質問

- ① 神の愛のあらわれを、あなた自身はどのように体験したことがありますか。安息日学校のクラスで、あなたがいかに神の愛を知り、体験したかについて、話してください。
- ② イエスが「人間の姿で現れ」**【口語訳「人間の姿になられ】**(フィリ[ピリ]2:7)たとは、具体的にどういう意味でしょうか。ローマ 8:3 と比較しながら、これら二つの聖句を踏まえて話し合ってください。

- ③ あなたの所属教会は、どのような一致の問題に直面していますか。どのような問題であり、「何事も利己心や虚栄心からするのではなく」【口語訳「何事も党派心や虚栄からするのでなく】(フィリ[ピリ]2:3)、進んでへりくだることが、少なくともその問題に取り組み始めるためのすばらしい方法であるのは、なぜでしょうか。

31

フィリ 2:7 (新共同訳)

2:7 かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、

ロマ 8:3 (新共同訳)

8:3 肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださいました。つまり、罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです。

フィリ 2:3 (新共同訳)

2:3 何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え、

ピリ 2:7 (口語訳)

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

ロマ 8:3 (口語訳)

8:3 律法が肉により無力になっているためになし得なかった事を、神はなし遂げて下さった。すなわち、御子を、罪の肉の様で罪のためにつかわし、肉において罪を罰せられたのである。

ピリ 2:3 (口語訳)

2:3 何事も党派心や虚栄からするのではなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりもすぐれた者としなさい。